

## ～双京構想の実現～

日本の大切な皇室の弥栄のために、悠久の歴史に培われた日本の伝統文化の中心地であり、皇室のお住まいである御所があり、また、海外からの賓客をお迎えする国の迎賓館のある、ここ京都にも、皇室の方にお住まいいただき、「東京」と「京都」が、我が国の都としての機能を双方で果たしていくことが、日本全体にとって大変有意義なことではないかと存じます。

この「双京構想」は、関西広域連合や関西経済連合会、大阪、神戸、堺、京都の4つの商工会議所等により、その趣旨が盛り込まれた首都機能のバックアップに関する意見が出されるなど、関西にも実現に向けた動きが広がっております。

また、皇室に関して造詣の深い有識者の方からも、「宮中の儀式や行事の一つを京都で執り行う」などの御意見もいただいているところであり、皇室の方が少しでも京都にお越しいただく機会が増え、京都との関わりを一層強めていただきたい、そして、日本人の心のふるさとである京都にも皇室の方にお住まいいただきたいとの願いを込め、「双京構想」の実現に向け、オール京都の体制で取り組んでまいります。

### ◇京都の未来を考える懇話会の政府に対する要請（平成24年7月26日）

未曾有の被害をもたらした東日本大震災の教訓や、首都直下型地震発生リスクが一層高まる中、万が一の事態に備えて、首都中枢機能のバックアップ体制を早急に構築することが求められており、超党派の国会議員や有識者によって議論が進められているところであります。

とりわけ、日本の精神的支柱である皇室の安心・安全の確保について、万全の体制を整えておくことも必要と思われれます。

このため、私ども「京都の未来を考える懇話会」では、本年3月に発表した「京都ビジョン2040」の第一次提案に即し、日本の歴史・文化の中心であり、日本人の心のふるさとである京都の地に、皇族の方にお住まいいただくことなどについて、有識者による会議なども開催して具体的な検討を進めてまいりたいと考えております。

政府におかれましては、現在、女性宮家問題をはじめとして、今後の皇室の御活動やあり方について検討が進められているところですが、併せて、日本の大切な皇室の弥栄のために、上記のような提案などについて、政府として御検討いただきますよう、要請いたします。

#### \*京都の未来を考える懇話会

2010年4月、京都の行政、経済界、大学、伝統文化等の代表が、30年後の京都のビジョンを語り合い、オール京都で京都の未来像を描くために設けた懇話会

山田啓二（京都府知事）、門川大作（京都市長）、立石義雄（京都商工会議所会頭）、松本 紘（京都大学総長）、柏原康夫（京都府観光連盟会長/京都市観光協会会長）、池坊由紀（華道家元池坊次期家元）、白石方一（京都新聞社代表取締役会長兼社長）